

## 「大分認知症カンファレンス」について

大分県認知症介護指導者

工藤美奈子

キーワード: ロコミ・市町村を越えた連携・相互作用  
対等な関係性・プロセス重視

## 活動の概要(活動の主体:個人)

## 【活動目的】

高齢化の進行とともに増え行く認知症の予防、早期診断、早期治療、ケア技術の向上と地域での連携強化を図ることにより認知症の医療・福祉の向上ならびに認知症患者のQOL向上に寄与する。(会則より)

## 【活動内容】

研究発表会、学術講演会などの学術集会の開催(年2回)及びその他、目的を達成するために必要な事業。

## 活動のきっかけ、背景(指導者として・介護支援専門員としての立場で)

認知症の課題に対して学びを深めたいとして開催されていた「認知症自主勉強会」において、認知症ケアについて神経内科医師から声をかけられ、認知症患者の診療の課題を話しあう場に参加することとなった。

なお、2010年を前後として大分県内各地で認知症と家族の支援について問題意識をもっていた医師や地域包括支援センター職員・ケアマネジャー・介護職員らそれぞれが主体的に集まる場が作られはじめていた。

## 活動の経過と成果

## 【活動の経過】

大分県県立病院の神経内科医を代表と「大分認知症カンファレンス」が2011年に設立する。

このネットワークは大分県を単位として各市町村地域で認知症支援の活動をしている専門職と認知症の人の診療・ケアに携わり熱心にされている専門職らをロコミで世話人として増やしながらネットワークを広げていった。なお、このカンファレンスには2020年3月現在で大分認知症カンファレンス世話人61名中、認知症介護指導者3名、認知症サポート医17名、認知症地域支援推進員3名が所属。発展している。また、活動内容は世話人を年2回開き同時に特別講演と地域の実践報告等を1回3時間程度の研修会として開催することを基本としてその他必要な活動をしている。

カンファレンスでは、特定の医師や団体を中心にするのではなく、地域の世話人へのバランスを配慮することを意識している。また、対等な関係性を構築することを目的としているためすべての参加者が率直に質問・意見ができるようにするとともに、普段声を上げないケアサイドの世話人等があればこちらからアプローチし事業を企画するように意識している。

## 【活動の成果】

研修は毎回多くの専門職が参加している。県単位でネットワークを構築したことで、それぞれの地域での研修会の情報共有し市町村地域を越えて相互に学びあう関係が構築した。また、医師とコメディカル・ケアサイドなど関係者が「対等な関係性」として主体的にワークが広がって現状に至った。また、世話人増加にもつながった。

## 今後の展望

今年 NPO 法人化し事業継続の安定化を図り活動を継続する。また、世話人と共に認知症施策の提言書作成等に取り組むことで現在進行中。

大分認知症カンファレンスの特性を生かして、他団体等との連携も視野にいれて認知症施策への提言や、それぞれの団体間の活動の相互作用の効果を上げていきたいと思う。

こちらの事例報告は、「認知症介護指導者養成研修等のアウトカム評価に関する調査研究事業報告書(令和2年度老人保健健康増進等事業)」の巻末資料【認知症介護指導者の活動事例】からの抜粋です。

